PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number:

07-034189

(43) Date of publication of application: 03.02.1995

(51)Int.Cl.

C22C 38/00

C22C 38/60

(21)Application number : 05-175743

(71)Applicant: NIPPON STEEL CORP

(22)Date of filing:

15.07.1993

(72)Inventor: OCHI TATSURO

KOYASU YOSHIRO

YANASE MASAHITO

(54) HIGH STRENGTH BAR STEEL EXCELLENT IN MACHINABILITY

(57)Abstract:

PURPOSE: To provide high strength bar steel having excellent strength as rolled and excellent in machinability as well.

CONSTITUTION: High strength bar steel of ≥80kg/mm2 as rolled excellent in machinability is the one having a compsn. contg. 0.10 to 0.60% C, 0.02 to 4.0% Si, 0.3 to 3.0% Mn, 0.005 to 0.15% S, 0.01 to 0.8% Al and 0.002 to 0.020% N, in which P is reduced, or/and contg. specified amounts of one or ≥two kinds among Nb, V and Ti, or/and contg. specified amounts of one or two kinds among Cr, Mo and Ni or/and contg. specified amounts of one or two kinds of Ca and Pb, and in which the outer circumferential part has a layer of ≥3mm depth with a mixed structure in which the structural fraction of ferrite is regulated to 10 to 60%, and the balance substantial at least one of martensite and bainite.

(19)日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11)特許出願公開番号

特開平7-34189

(43)公開日 平成7年(1995)2月3日

(51) Int.Cl.⁶

酸別記号 庁内整理番号

FΙ

技術表示箇所

C 2 2 C 38/00 38/60 301 M

k/60

審査請求 未請求 請求項の数4 OL (全 10 頁)

(21)出願番号	特顧平5-175743	(71) 出願人 000006655
		新日本製織株式会社
(22)出顧日	平成5年(1993)7月15日	東京都千代田区大手町2丁目6番3号
	.,,,,	(72)発明者 越智 達朗
		北海道室蘭市仲町12番地 新日本製鐵株式
		会社室蘭製鐵所内
	,	(72)発明者 子安 善郎
		北海道室蘭市仲町12番地 新日本製鐵株式
		会社室蘭製鐵所内
		(72)発明者 柳瀬 雅人
		北海道室蘭市仲町12番地 新日本製鐵株式
		会社室蘭製鐵所內
		(74)代理人 弁理士 矢葺 知之 (外1名)

(54) 【発明の名称】 被削性の優れた高強度棒鋼

(57)【要約】

【目的】 本発明は、圧延ままで80 kgf/mm² 以上の優れた強度を有し、かつ被削性の優れた高強度棒鋼を提供する。

【構成】 C:0.10~0.60%、Si:0.02~4.0%、Mn:0.3~3.0%、S:0.005~0.15%、Al:0.01~0.8%、N:0.002~0.02~0.020%を含有し、Pを低減し、または/さらに特定量のNb、V,Tiの1種または2種以上を含有し、または/さらに特定量のCr、Mo、Niの1種または2種を含有し、または/さらに特定量のCa、Pbの1種または2種を含有し、フェライトの組織分率が10~60%で、残部が実質的にマルテンサイトおよびベイナイトの少なくとも1つからなる混合組織である深さ3mm以上の層を外周部に有する被削性の優れた高強度棒鋼。

【特許請求の範囲】

【請求項1】 重量比として、

 $C : 0.10 \sim 0.60\%$

 $Si:0.02\sim4.0\%$

 $Mn: 0. 3\sim 3. 0\%$

 $S : 0.005 \sim 0.15\%$

 $A1:0.01\sim0.08\%$

N:0.002~0.020%、を含有し

P:0.02%以下に制限し、

ェライトの組織分率が10~60%であり、残部が実質 的にマルテンサイトまたは/およびベイナイトからなる 混合組織」である深さ3mm以上の層を有する被削性の優 れた高強度棒鋼。

【請求項2】 さらに、成分が、

 $Nb:0.01\sim0.3\%$

 $V : 0.03 \sim 0.7\%$

Ti:0.005~0.05%の1種または2種以上を 含有する請求項1記載の被削性の優れた高強度棒鋼。

【請求項3】 さらに、成分が、

 $Cr:0.05\sim2.5\%$

 $Mo: 0.05\sim 1.5\%$

Ni:0.1~3.5%の1種または2種以上を含有す る請求項1または請求項2記載の被削性の優れた高強度 棒鋼。

【請求項4】 さらに、成分が、

Ca: 0. 0005~0. 005%

Pb:0.05~0.5%の1種または2種以上を含有 する請求項1、2または3記載の被削性の優れた髙強度 棒鋼。

【発明の詳細な説明】

[0001]

【産業上の利用分野】本発明はシャフト、ピン、ロッド 等の軸部品を製作するための素材棒鋼にかかわり、さら に詳しくは、圧延ままで切削される上記軸類部用棒鋼と して被削性の優れた高強度棒鋼に関するものである。

[0002]

【従来の技術】シャフト、ピン、ロッド等の軸部品は、 従来中炭素鋼を用い、切削加工-焼入れ焼戻し(または 焼きならし) - 仕上げ切削加工(-さらに一部の部品で 40 は高周波焼入れ・焼戻し)の工程により製造されてい る。ことで、焼入れ焼戻しまたは焼きならしは軸部品と して必要な強度と延性を確保するために行う処理である が、低コスト化の視点から焼入れ焼戻しまたは焼きなら し処理省略の指向が強い。さらに一方では、近年とのよ うな軸部品についても高強度化の指向が強い。

【0003】とれに対して、特公昭57-21008号 公報には特定成分系の材料を特定条件で圧延する靭性の 優れた軸用棒鋼の製造方法が示されている。本方法によ り80kgf/mm² クラスの焼きならし処理省略棒鋼の製造 50 した。

は可能である。しかしながら、80kgf/mm²以上に強度 をアップすると切削が困難になるため、圧延まま材を用 いて、現状で実現できる強度の最大は約80kgf/mm で ある。

2

[0004]

【発明が解決しようとする課題】しかし、前記した強度 80kgf/mm²の強度レベルは、軸部品の強度レベルとし て十分であるとは言えないのが現状である。本発明の目 的は、80kgf/mm 以上の優れた強度を有し、かつ切削 残部が鉄および不可避的不純物からなり、外周部に「フ 10 加工が可能である被削性の優れた高強度棒鋼を提供しよ うとするものである。

[0005]

【課題を解決するための手段】本発明者らは、被削性の 優れた高強度棒鋼を実現するために、鋭意検討を行い、 被削性は通常高強度化により低下するが、「組織を軟質 相(フェライト)と硬質相(マルテンサイト、ベイナイ ト)の二相組織」とすることにより、高強度と被削性の 両立が可能であるという知見を得た。

【0006】本発明は以上の新規なる知見にもとづいて 20 なされたものであり、本発明の要旨は以下の通りであ る。重量比として、C : 0.10~0.60%、S i: 0. 02~4. 0%, Mn: 0. 3~3. 0%, S $: 0. \ 0.05 \sim 0.15\%, \ A1:0.01 \sim 0.0$ 8%、N : 0.002~0.020%、を含有しP : 0. 02%以下に制限し、または/さらにNb: $0.01\sim0.3\%$, V : $0.03\sim0.7\%$, T i:0.005~0.05%の1種または2種以上を含 有し、または/さらにCr:0.05~2.5%、M $o: 0. 05\sim 1.5\%$, Ni: 0.1~3.5%01 30 種または2種以上を含有し、または/さらにCa:0. $0005\sim0.005\%$, Pb: 0.05 $\sim0.5\%$ 1種または2種を含有し、残部が鉄および不可避的不純 物からなり、外周部に「フェライトの組織分率が10~ 60%であり、残部が実質的にマルテンサイトまたは/ およびベイナイトからなる混合組織」である深さ3mm以 上の層を有する被削性の優れた髙強度棒鋼。

[0007]

【作用】以下に、本発明を詳細に説明する。本発明の成 分含有範囲を上記の如く限定した理由について説明す る。

【0008】まず、Cは強度を増加させるのに有効な元 素であるが、0.10%未満では強度が不足し、また 0. 6%を超えると、延性の劣化を招くため、含有量を 0.10~0.60%とした。

【0009】次に、Siは固溶体硬化による強度の増加 を図ることを目的としておよび脱酸元素として添加する が、0.02%未満ではその効果は不十分であり、一 方、4.0%を超えるとその効果は飽和し、むしろ延性 の劣化を招くので、その含有量を0.02~4.0%と

【0010】Mnは焼入れ性の向上を目的として添加する。しかしながら、0.30%未満ではこの効果は不十分であり、一方、3.0%を超えるとその効果は飽和し、むしろ延性の劣化を招くので、その含有量を0.3~3.0%とした。

【0011】また、Sは鋼中でMnSとして存在し、組織の微細化および被削性の向上に寄与するが、0.005%未満ではその効果は不十分である。一方、0.15%を超えるとその効果は飽和し、むしろ延性の劣化および異方性の増加を招く。以上の理由から、Sの含有量を100.005~0.15%とした。

【0012】次に、A1は脱酸元素として添加するが、0.01%未満ではその効果は不十分であり、一方、0.08%を超えるとその効果は飽和し、むしろ延性を劣化させるので、その含有量を0.01~0.080%とした。

【0013】さらに、NはA1N等の炭窒化物析出による組織の微細化を目的として添加するが、0.002%未満ではその効果は不十分であり、一方、0.020%超では、その効果は飽和し、むしろ延性の劣化を招くの20で、その含有量を0.002~0.020%とした。【0014】一方、Pは鋼中で粒界偏析や中心偏析を起こし、延性劣化の原因となる。特にPが0.02%を超えると延性の劣化が顕著となるため、0.02%を上限とした。

【0015】請求項2は、組織を一層微細化し、圧延ままでの強靭化を図った鋼材である。Nb, V, Tiは鋼中で炭窒化物を形成し、組織を微細化させる効果を有する。しかしながら、Nb含有量が0.01%未満、V含有量が0.03%未満、Ti含有量が0.005%未満ではその効果は不十分であり、一方、Nb:0.30%超、V:0.70%超、Ti:0.05%超ではその効果は飽和し、むしろ延性を劣化させるので、これらの含有量をNb:0.010~0.3%、V:0.03~0.7%、Ti:0.005~0.05%とした。

【0016】請求項3は、焼入れ性の増加を図り一層の強靭化を図った鋼材である。Cr, Mo, Niは焼入れ性の増加により、圧延まま棒鋼の強度延性を増加させるために添加する。しかしながら、Crの含有量が0.05%未満、Niの含有量が0.05%未満、Niの含有量が0.1%未満ではその効果は不十分であり、一方、Cr:2.5%超、Mo:1.5%超、Ni:3.5%超ではその効果は飽和し、むしろ延性を劣化させるので、これらの含有量をCr:0.05~2.5%、Mo:0.05~1.5%、Ni:0.1~3.5%とした。

【0017】請求項4は、より一層被削性を向上させた 鋼材である。本発明鋼では、被削性向上を目的としてC a、Pbの1種または2種を含有させることができる。 しかしながら、Ca含有量が0.0005%未満、Pb 含有量が0.05%未満ではその効果は不十分であり、一方、Ca:0.005%超、Pb:0.50%超では、その効果は飽和し、むしろ延性を劣化させるので、これらの含有量をCa:0.0005~0.005%、Pb:0.05~0.5%とした。

【0018】次に本発明では、棒鋼の外周部に「フェラ イトの組織分率が10~60%であり、残部が実質的に マルテンサイトまたは/およびベイナイトからなる混合 組織」である。深さ3m以上の層を有する。棒鋼の外周 部組織を「フェライトの組織分率が10~60%であ り、残部が実質的にマルテンサイトまたは/およびベイ ナイトからなる混合組織」とするのは、軟質相(フェラ イト) と硬質相(マルテンサイト、ベイナイト)の二相 組織とすることにより、高強度と被削性を両立させるた めである。フェライトの組織分率が10~60%とした のは、フェライトの組織分率が10%未満では被削性が 劣化し、フェライトの組織分率が60%超では強度が不 足するためである。また、この二相組織の深さを3mm以 上としたのは、3mm未満では高強度と被削性を両立させ るのに十分な効果が得られないためである。なお、本発 明では、二相組織の深さの上限は規定せず、つまり中心 まで本要件を満たす二相組織とすることができる。ま た、本発明の被削性の優れた高強度棒鋼では、製造のた めの加熱-圧延条件-冷却条件は特に限定せず、本発明 の要件を満足すればいずれの条件でも良い。例えば、棒 鋼の外周部に所定の二相組織を得るには、熱間圧延に際 して、仕上げ圧延後の冷却過程で、Ar, -5℃~Ar 1 + 5 ℃の温度範囲で鋼材表面部を30℃/sec以上の冷 却速度で冷却する等の方法があり、また延性向上のため には熱間圧延を仕上げ温度:850~700℃とするの が望ましいが、本発明では製造条件を特に限定せず、本 発明の要件を満足すればいずれの条件でも良い。以下 に、本発明の効果を実施例により、さらに具体的に示 す。

[0019]

【実施例】表1の組成を有する162mm角の鋼片を40mmφの枠鋼に熱間圧延し、冷却途中で水冷(冷却速度:30℃/sec以上)し、表1に示すフェライト分率を有するフェライトと硬質相(マルテンサイト、ベイナイト)の二相組織を得た。この枠鋼について機械的性質よび被削性の評価を行った。

【0020】被削性の評価は、超硬旋削性については基材がP20でありTiNでCVDコーティングされた市販の超硬工具を用いて長手外周旋削し、10分切削後の工具逃げ面摩耗幅を測定して行った。試験に先立ち、切削位置の黒皮を旋削で片側0.5mm除去した。切削条件は切削速度150mm/min、送り0.2mm/rev、切り込み2.0mmとし、切削油は用いなかった。また、ドリル穴あけ性はJIS-SKH51で直径3mmのハイスドリルを用い、切削速度を種々変化させて各切削速度における

切削不能になるまでのドリル寿命から切削速度ードリル寿命曲線を求め、この曲線から寿命穴あけ総深さが1000mmでドリル寿命となる最大切削速度を求め指標とした。ドリル寿命に及ぼす黒皮の影響を排除するため、丸棒の外周表面の黒皮部に幅約5.5mmの平坦部を設けるために、圧延方向に平行に深さ0.2mm研削し、ドリル穴あけはこの面に対して垂直に行った。穴あけ条件は送り0.1mm/rev、穴深さ5mmとし、切削油はスピンドル油を用い、2リットル/分とした。

【0021】さらに、高周波焼入れによって深さ3mmの 10 硬化層を有する軸状試験片を製作し、捩り強度を評価した。表2に圧延まま材の機械的性質、被削性の評価結果 および高周波焼入れ後の捩り強度を示す。

【0022】本発明鋼は圧延まま材でいずれも80kgf/mm 以上の優れた引張強度を有し、同時に優れた被削性を有しており、また高周波焼入れにより優れた捩り強度を有していることがわかる。

【0023】一方、比較例5、7、9は、C、Si、M nの含有量が本発明の範囲を下回った場合であり、いずれも引張強さが不足している。比較例6、8、10、11、12、13、14はC、Si、Mn、S、Al、N、Pの含有量が本発明の範囲を上回った場合であり、いずれも伸びが不十分である。比較例24、25、26、55、56、57、81、82はNb、V、Ti、Cr、Mo、Ni、Ca、Pbの含有量が本発明の範囲を上回った場合であり、いずれも伸びが不十分である。【0024】比較例15、27、58、83はフェライトの組織分率が本発明の範囲を下回った場合であり、優れた被削性が得られていない。また、比較例16、28、59、84はフェライトの組織分率が本発明の範囲を上回った場合であり、いずれも引張強さが不足している

[0025]

【表1】

						_										_		_											
イト組織ストイナイト	インサイト)紹かる書	ន	22	123	46	47	೫	Ξ	22	42	88	18	37	42	19	6	83	21	16	33	18	43	25	39	31	80	14	2	64
ンメライト組 分略 % (残機ペイナイ	るがる	34	37	38	25	25	48	19	31	5]	47	83	9	32	27	-	73	30	28	43	27	56	36	25	45	43	22	o.	76
ag.		ŀ	ŀ	1	l	ļ	1		1	ı	1	ŀ	١	Ŀ	1	ı	ı		ı	ı	ŀ	1	;	ı	ı	ı	ı	-	ı
පී		ı	ŀ		,	1	ı	1	,	,	,			,		,		,	,	ı	,	,	,	-		1	1	ļ	,
æ			Ŀ	,	Ŀ	,	Ŀ	-	•	,	,	ļ					,		,	-	-	-	-	-	1	١	,	-	ļ.
£		ŀ	,	<u> </u>		ŀ	ŀ	-	-	-	•	•	-	,	-	ŀ	,	·	Ŀ	-	-	١	-	-	•	•	•	•	_
5	<u> </u>	ŀ	ŀ	Ŀ	ŀ	ŀ	•	-	-	-	_	-	ŀ	,	-	ŀ	,	ŀ		-		-	•		-	-	-	ı	•
· F		ı	•	,		,	1	1	•	1	•	_	1	ı	-			١,		0.035	1	0.019	0.024	0.022	Į.	,	0.061	٠	0.019
, -		1	ı	_		•	1	1	1	1	ı	-	-	_ = _	-	. =	-		0.19		0.37		0.18	0.13	1	0.86	ı	0.19	-
2		1	ı	-	ı	,	1	1	l	1	ŀ	1	_	1		_	-	D. 052	-		0.017	0.031	1	D. 014	0.413	1	1	1	D.029
<u>a</u> ,		0.011	0.008	0.00	0.014	0.020	0.011	0.08	0 9	0.015	0.01	0.014	0.017	0.018	0.029	0.00	0.006	0.011	0.008	0.00	0.014	0.017	0.011	0.017	0.019	0.011		0.015	0.003
z		0.0062). 0036	0.0152	0.0096	0048	.0065	.0036	.0032	.008	0.0183	0.0144	. 0087	0270	. 0145	. 0036		D. 0062	D. 0036	0148	. 0098	. 0043	. 0065	. 0087	. 0043	. 0083	. 0087	. 0036	0.0041
- 17		0.032	D. 037	0.017	0.029	0.030	0.032	0.028	017	629	.019	8	98	220).018 r	1 032).017 [.017	83	0.018	0.029	.035	330	.032	88	0.035	.018
ß			0.042	0.135	0.092	윊	0.018	0.042	0.128	0.032	0.028	0.211	0.017	0.018	0.02	0.042	0.135	0.018	0.038	0.135		0.017		0.017	0.015	8100	0.021	0.038	0.019
윮		2.54	1.64	1.82	0.75	2.10	2.54			_	3.28			22.	2.32	 S	1.62	2.43	1.54	1.67	0.75			0.0			1.29		
Si			2.20	0	_		35	0.03	4.13	0.98	히						1.02		0.28	2.28	-	2.88	7	₹.	- I		_	3	7.67
ບ		=		0.43	0.53	90.0	0.73	0.18	0.36	0.44	0.53	0.84	0.20	0.28	 	.33	0.40	0.17	0.53	0.22	0.44	0.19	0. 3b	0.28 0.00		8	<u> </u>	2 2	0.23
₩		4 化光型	"	"	"	五数据		"	1	"	ı	-	1		- 1		″		*		,		,	//	比较知	"	,,	,	*
据 关 受		-1	2		4	ı,	ام		× •	20 5	= :		21	2]			9		8	20 2	3	7 6	3 8		1	S	9 6	3 8	22

[0026]

【表2】

34	83	얈	37	2	13	S	₩	₹	8	8	经	눓	23	8	9	တ္လ	∞	7	8	9	8

イナイン・	SS SS	22	91	35	34	28	53	37	21	17	33	43	41	38	30	38	34	27	38	40	29	18	21	30	40	28	32	37	43	0	88
フェライト組織 分容 8 (残部ペイナイト ッル・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	48 A	1		l	l	35					1	١,	l			۱.,	ļ		Ì											0	
त्र	1	ı	!	ŀ	Ŀ	·	Ŀ			-	·		·	·	•	,	ŀ	,	-	-	-	-	-		- :	-	ı	-	-	-	
<u> </u>		ŀ	,	,			.			,		,	 - 	,		,	,			,	ı		_	1			1	-	1	l	1
i N		,	3.06		1.36	86.1	0.88	_	Ŀ	- 1	-	2.86	-	-		-	-	2.36	1.87	1.85	1.62	2.03	.96.0		2.31	1.08		ı	4.18	,	0.82
o _K	,	1.25		0.15	,	0.75	0.21	١	ŀ	0.49	0.72	,	0.41	0.20		0		Ŀ	-	0.84	0.43	1.15	0.54	0.43	0.27	0.12	-	2.31	ı	-	0.51
5	0 93			1.24	0.47		1.04	1.87	0.43		ŀ		0.59	10.1	0.87	1.45	1.08	0.83	1.15	-	-	ì	•	0.84	0.41	1.24	3.24			1.04	1.01
F	<u> </u>	ľ	,	١	ŀ	-	•		-	٠,	0.032	<u>'</u>	-		•	0.024	0.015	r	0.009	1	-	0.014	0.008	٠	,	0.021	1	t	ı	,	•
>	Ŀ	1	1	-	1			-	0.24	0.17	-	-	=	0.13	0.07		0.15	+	0.21		0.53		0.12		0.19	0.13	1	-		ı	1
ą.	1	1	1	1	_	!		D.028	-	-	1	D.248	D. 121	1	D.031	1	ŀ	D. 152		0.085	1	D. 183	0.027	D.035	I	D. 026	١		1	1	1
٠,	0.00	0.008	0.003	0.014	0.019	0.011	0.010	900.0	0.003	0.011	900 0	0.009	0.014	10.01	0.008	0.00	0.014	0.018	0.011	=	0.08 80	9	0.014							8	0-011
2	0.0061	0.0036	0.0148	0.0036	0.0043	J. 0063	J. 0057		0.0148	2900 .	0.0036	0.0143	0.0096	0.0062	0,0038	0.0148	0.088	.D.0038	D. 0065	D. 0056	. 0036	D.0148	0.0084	0.0034	D. 0065). 0062). 0091	0062	0038		p. 0057
I W	D. 026	D. 036	D. 016	D. 029	D. 029	0.021	ci	0.037	D. 019	희	D.037	017		oi		8	읾	D. 028	8	떯	얼	0.017			2	D. 032	0.029	D. 027	الت	D. 028	D. 035
ν	0.017	0.032		0.030	0.017	e e	0.017	0.045	0.135	희		0.114	0.092	0.018	0 88	0. 135	0.03 032	0.017	0.015	0.018	0.038	0.121	0.092	0.017	0.018	0.018	0.083		0.038	0.018	0.017
Æ	0.77	1.34	2.03	1.54	1.67	0.75	1.27	2.16		2.44	_	1.28	_		_				2.16	0.75	2.43	1.54		0.75		2.13		0.75		0.87	1.25
22	3.46	2.	\exists	0	વ		~ં	킈	듸	ᅇ	2, 12	0.38	_	_		_	_	_	_	2.20	_		_		2.74		2.23				2.83
ပ	0.46		0.35				0.21	0.33	0.30 SS	0.16	0.31	0.43	0.20	0.35	0.53	0.27	ပ ု	0.19	98	0.28	0.21	2	0.28	0.47	0.19	10.35	0.22	0.45	0.19		0.20
***	阿架明	"	<i>"</i>	~	<u>"</u>	_		"	"	"	"	"	4	n	*	"	"	"	"			_	"		*	"	打製	*			
关.	62	30	₩.	22	88	8	8	88	31	88	င္တ	9	7	42	3	4	3	8	Ş	3	\$	3	ភ	Z S	3	ž	ន្ត	8	ي ام	3	2
四分話	က																														╛

【表3】

[0027]

11

フェライト組織分略 3分野 8 (独略ペイナイト)マル・ンサイト マル・ンサイト 無	51 38	İ	1	ı	•		ı		l	1			ı									ı			78 82
£		0.12	0.14	,	0.26	0.2	0.03	0.31	2.5	,	0.23	0.28	0.08	,	0.31	0.28	0.37	0.21	0.31	0.21	0.14	•	99.0	0.13	0.14
င်	0.0024		0.0033	0.0028	1	0.0024	0.0008	Ŀ	0.0029	0.0022	0.0037	-		0.0031		0.0029	0.0026	0.0048	-	0.0024	0.0037	0.0083	,	•	0.0028
N.			ı		-	_	-				1	3.15		,	1			2.48	0.38	0.54	1.26		ľ	-	
У				,		-	-	_	•	0.27	0.16	89.0		,	0.16	1.24	88.0	-	0.19	0.23	0.97	,	,	= '	-
ပ်	ŀ	ŀ		-	1	1	-	0.86	1.21	0.87	0.97	0.39	1.03	0.87	1.12	0.38	0.48	0.85	0.74	1.25	0.35	-		- :	1
H	,	,			٠	0.018	•		•		1	•	-		,	1	•	٠	F.	•	0.021	-	-	4	,
Á	,		-	-	0.37	•	0.19	•	-	-	-	•	•	0.53	ı	•	0.29	0.38	0.12	0.53	0.37	-	-	•	<u>-</u>
N AN	<u> </u>	•	•			_	D. 026	ļ	ı	1	.1	,	0.054	1	0.028	0.041	0.018	1	0.067	0.028	0.034	_	_	+	
e.,	0.016	0.011	0.011	0.008	0.00	0.011	900	000	0.014	0.011	0.008	0.00	0.014	0.017		0.011	0.08	0.00	0.014	0.018	0.011	0.011	0.016	0.014	0.011
~	0043	. 0065). 0082	0.0038	0.0152	. 0082	.0036	.0134	.0096	. 0062	. 0035	. 0148	. 0096	. 0043	.0085	.0062	. 0032	0134	. 0096	. 0043	. 0085	. 0062	. 0050		0.0052
Ą		0.033	0.017	0.028		88	3.032	0.037	0.017	0.032	1 620 .	017	88	20.0	8		0.029	0.021	0.029	. 032 r). 032 r		0.019		
Ŋ		0.038	0.135	0.092	0.017	0.018	0.018	0.044	0.135	0.03	0.042	0.135	92	0.018	0.038	23	2	8	0.018	0.015	0.038	0.132	0.013	0.038	0.132
Ę,	1-	1,27	2.17	1.54						2.48	1.48	1.62	0.7	2.16	1.54	1.67	2	1.27	1.92	0.75	2.43	1.54	2.27	1.21	2.17
Si	1.21	0.26	2.28	3.38	2.86	1.21	2.38	.2.97	1.98	0.38	0.24	1.12	0.26	2.16	3.12	_			_			_		0.26	2.21
ບ		0.57	0.22	0.45	23	0.35	82°	0.15	82	0.43	0.53	0.35	0.20	0.26	4.	0.13	O. 38	0.28	0.17	0.50	0.24	0.23	92.0	0.53	0.22
网络	5. 差明鋼	*	<u> </u>	"	*		<u>"</u>	~	*	*	*	\leq	7	"			*	*["	乃教置	"	*	"
据		19	29	83	2 6	8	g	٥	8	3	≥;		2/	2	= - -	9	9	- 6	e ç	22 8		-1	200	3	84
	水準 区分 C Si Mn S Al N P ND V Ti Cr No Ni Ca Pb (発配ペーマルラ A	水準 区分 C Si Mn S Al N P Nb V Ti Cr No Ni Ca Pb (発的ペイ・ 80 本発明鋼 0.36 1.21 0.75 0.018 D.021 D.0043 0.016 0.0024 - 51 3	水準 区分 C Si Mn S Al N P Nb V Ti Cr No Ni Ca Pb (発的ペ <u>80 本発明鋼 0.36 1.21 0.75 0.018 D.021 D.0043 0.016 0.0024 - 51 </u>	水準 区分 C Si Mn S Al N P Nb V Ti Cr No Ni Ca Pb (発的ペリンタ 1.27 0.038 D.0018 D.001	水準 区分 C Si Mn S Al N P Nb V Ti Cr No Ni Ca Pb (発的ペリンタ Ni O.25 2.28 2.17 0.135 0.017 0.0082 0.0018 0.006 0.0063 0.00028 0.14 36 88	水準 区分 C Si Mn S Al N P Nb V Ti Cr No Ni Ca Pb (発的ペリンタ Ni O.25 2.28 2.17 0.135 0.017 0.0082 0.008 0.063 0.0028 0.12 38 1.54 0.092 0.028 0.008 0.063 0.0028 0.14 36 84 2 2.86 1.67 0.017 0.013 0.015 0.018 0.068 0.083 0.0028 0.14 35 84 37 86 1.67 0.017 0.015 0.018 0.008 0.083 0.0028 - 37 85 1.88 1.54 0.017 0.018 0.018 0.018 1 0.0028 1 37 85 1 1.54 0.017 0.018 0.018 0.018 1 0.0028 1 37 85 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	水準 区分 C Si Mn S Al N P Nb V Ti Cr No Ni Ca Pb (発的ペリンタ 12 0.75 0.018 0.021 0.0043 0.016 0.0024 - 51 0.12 0.12 0.022 0.017 0.018 0.006 0.063 0.0024 0.12 35 0.14 36 0.018 0.005 0.011 0.0023 0.14 36 0.18 0.015 0.017 0.018 0.005 0.011 0.0023 0.14 36 0.17 0.018 0.018 0.006 0.063 0.018 0.00	水準 区分 C Si Mn S Al N P Nb V Ti Cr No Ni Ca Pb (発的ペリンタ LO Ca Da	水準 区分 C Si Mn S Al N P Nb V Ti Cr No Ni Ca Pb (発的ペート)	水準 区分 C Si Mn S Al N P Nb V Ti Cr No Ni Ca Pb (発的ペート)	水準 区分 C Si Mn S Al N P Nb V Ti Cr No Ni Ca Apa 3 A	水準 区分 C Si Mn P Nb V Ti Cr Mo Ni Can Apa 3 Aa	大学 区分 C Si	 水準 区分 C Si Mn S Al N P NB V Ti Cr NO NI Ca Pb (発酵へ下水) 80 本発酵網 0.36 1.21 0.75 0.018 0.021 0.0043 0.016 0.0024 0.017 0.0061 0.011 0.0024 0.012 0.016 0.011 0.0028 0.14 35 0.017 0.008 0.011 0.0028 0.14 35 0.017 0.008 0.011 0.0028 0.14 35 0.017 0.008 0.011 0.0028 0.14 35 0.017 0.008 0.010 0.017 0.008 0.018 0.008 0.018 0.		水準 区分 区分 C Si Mn N N N Ti C No Ni C A分率 及 80 本発射器 C Si L22 C L22 C L22 C L22 C L22 C L22 C L22 L22 C L22 L22 C L22 L22 L22 C L22 L23 L032 L0	Reg 区分 C Si Hn S Ai N P Nb V Ti Cr No Ni Ca Pb 分容 分容 Ai Ai Ai Ai Ai Ai Ai A	26 左後時端 0.36 1.21 0.75 0.018 D.021 D.0043 0.016 0.0024 - 51 20 0.018 D.022 D.028 D.038 D.008 D.039 0.0024 - 51 20 0.018 D.032 D.038 D.008 D.031 0.0024 - 51 20 0.018 D.032 D.038 D.008 D.031 0.0024 - 51 20 0.018 D.032 D.038 D.008 D.032 D.038 D.008 D.033 D.038 D.0	本権 区分 C Si Mn S Al N P Nb V Ti Cr No Ni Ca Pb (発酵の	## 医分 C Si Mn S A1 N P N N Ti Cr No Ni Ca Pb (投稿を	## 区分 C Si Mn S Al N P NB V Ti Cr NO NI Ca Pb (分称 NF	40年 医分 C Si Mn S Al N P ND V Ti Cr NO Ni Co PD 公職	(本) (x) (x	(本) (大) (\tau) (\tau	## 医分

[0028] [表4]

表2(その1)

表2(1	1					ard tol.	1.0.00
請求項	水準	区分	引張強さ	伸び	超硬旋削	削 性 ハイスドリル	IQT後の 捩り強度
Ţ			1.61.2				
	 	-1-70-777-677	kgf/mm²	%	工具摩耗*1	寿命速度松	kgf/mm²
1	1	本発明鋼	113	27	240	19.6	10,9
	2	本発明鋼	101	28	161	32.6	142
	3	本発明鋼	1,02	28	117	48.8	167
	4	本発明鋼	8.8	30	114	51.0	188
	5	比較鋼	6 4	36	131	42.4	90
	6	比較鋼	122	17	348	13. 2	159
	7	比較鋼	77	33	142	38.3	115
	8	比較鋼	129	16	221	21.7	153
	9	比較鋼	73	3 4	120	47.6	170
	10	比較鋼	117	20	310	14.1	168
	11	比較鋼	111	16	129	43. 2	155
	12	比較鋼	93	20	192	26.0	119
l	13	比較鋼	8 6	19	172	30.0	129
	14	比較鋼	122	15	330	12.8	120
	15	比較鋼	125	25	648	3. 2	146
	16	比較鋼	6 9	3 4	123	46.2	161
2	17	本発明鋼	100	28	216	22. 3	113
	18	本発明鋼	110	27	241	19.5	188
1 [19	本発明鋼	9 5	30	1 3 3	41.8	124
} [20	本発明鋼	119	26	217	22. 3	169
	21	本発明鋼	9 0	30	183	27.6	118
	2 2	本発明鋼	113	27	291	15. 2	151
	23	本発明鋼	87	30	175	29. 2	136
· [2 4	比較鋼	97	20	209	23.3	128
	25	比较鋼	120	18	318	13.3	1,77
	26	比較鋼	8 9	21	1.78	28.7	115
[27	比較鋼	108	27	67l	2. 8	174
	28	比較鋼	7 1	34	166	31.4	120

【表5】

[0029]

表2(その2)

表2(その2))					
請求項	水準	区分	引張強さ	伸び	被	削性	IQT後の
间水坝	小中	区万	11223	'' `	超硬旋削	ハイスドリル	捩り強度
	L		kgf/mm²	%	工具摩耗*1	寿命速度42	kgf/mm²
3	29	本発明鋼	117	27	3 3 3	12.8	173
	30	本発明鋼	112	27	261	17. 5	121
	31	本発明鋼	104	27	147	36.6	150
	32	本発明鋼	118	2.7	215	22.6	185
l	33	本発明鋼	104	28	236	20.0	123
ļ	3 4	本発明鋼	122	25	353	14.0	167
	3 5	本発明鋼	119	2 5	310,	14.6	122
	36	本発明鋼	121	26	3.09	14. 1	146
	3 7	本発明網	91	29	128	43.5	141
	38	本発明鋼	125	26	372	120	111
	39	本発明鋼	112	26	2 4 5	19.0	142
	40	本発明鋼	96	29	142	38. 2	167
	41	本発明網	105	28	173	29.8	182
	42	本発明鋼	117	2 6	331	13.0	151
	43	本発明網	121	26	319	13.6	188
	44	本発明鋼	125	2 5	198	25.0	134
	4.5	本発明鋼	124	2.6	240	19.5	167
	46	本発明鋼	108	28	256	18.0	117
	47	本発明鋼	123	2 6	381	12.3	157
	48.	本発明鋼	9 3	29	192	26.0	136
	49	本発明鋼	120	26	309	14. 1	122
	50	本発明鋼	113	27	173	29.7	1.88
	51	本発明鋼	112	27	191	26.3	131
	52	本発明鋼	123	26	371	12.4	175
	5 3	本発明鋼	109	27	266	17. 2	117
	54	本発明鋼	119	26	354	11. 9	150
	5 5	比較鋼	124	16	253	18.3	124
ļ	56	比较鋼	125	18	457	8. 6	167
	57	比較鋼	90	22	168	24.8	117
	58	比較鋼	137	24	517	3. 1	173
	59	比較鋼	6 5	36	175	29.2	120

[0030]

【表6】

表2(その3)

	(1)		引張強さ	伸び	被	削性	IQT後の
請求項	水準	区分	ים אלטעניון ני	1440	超硬旋削	ハイスドリル	捩り強度
			kgf/mn²	%	工具摩耗*1	寿命速度松	kgf/mm²
4	6.0	本発明鋼	8 6	3 1	172	30.0	153
	6 1	本発明鋼	103	28	136	40.5	1.96
	62	本発明鋼	104	27	105	50.2	123
	63	本発明鋼	124	26	240	19.5	172
	6 4	本発明鋼	115	26	114	50.5	126
	6 5	本発明鋼	8 6	3 1	102	51.2	150
	66	本発明鋼	101	28	1 5 5	34.3	136
	67	本発明鋼	119	26	101	52.1	109
	68	本発明鋼	108	27	115	49.9	136
	6 9	本発明鋼	121	26	332	12.8	167
ļ ,	70	本発明鋼	127	25	129	43.4	188
	71	本発明鋼	115	26	92	53.0	150
	7 2	本発明鋼	109	27	140	39.0	182
	7 3	本発明鋼	1 2 0	2 5	318	13.3	129
	7.4,	本発明鋼	122	26	105	51.1	169
_	7 5	本発明鋼	121	26	93	52.3	117
	76	本発明鋼	103	28	78	54.0	153
	77	本発明鋼	125	26	143	37.9	136
	78	本発明網	114	2.7	103	54. 2	113
	79	本発明鋼	119	26	135	41.0	181
	80	本発明鋼	125	25	167	31. 1	127
	8 1	比較鋼	9 2	20	130	41.8	126
	82	比較鋼	111	14	63	55.0	132
	8.3	比較鋼	9.7	28	627	4. 2	175
	84	比較鋼	64	36	124	43.7	123

*1:10min 切削後の工具逃げ面摩耗幅 VB (μm)

*2:総穴深さ1000mでドリル寿命にいたる最大切削速度 (n/min)

[0031]

【発明の効果】以上述べたごとく、本発明法を用いれば、シャフト、ピン、ロッド等の軸部品を製作するための素材棒鋼として、80kgf/mm 以上の優れた強度を有 40

し、かつ切削加工が可能である被削性の優れた高強度棒 鋼が得られ、産業上の効果は極めて顕著なるものがあ る。